弓道場における自分自身の作法について、振り返ってみませんか？

射場への入場と退場
「何」に対して、「何故」礼をするのか。その作法の理由は？

【入口では止まって礼をする】

先に来た方が作っている道場の雰囲気，その中に入るのです。何の合図もなしに入っては雰囲気が乱れます。それは失礼にあたるもの。ですから一度止まって礼をします。

入口での最初の礼は、射場に対しての礼。今日、使わせていただく感謝の気持ちをもって礼をしたいものです。その後、射場にいる方に挨拶をしましょう。相手の状況を見て坐礼・立礼を使い分ける心掛けが大切。退出も同じです。

【入退場の足の運び方】

我が国では、左が「上」という思想が伝承されており、標準的な様式の場では、向かって右が「上」、左が「下」となります。これを踏まえると、向かって右の目上の方に近い足から進み出ると蹴飛ばす足となり、目上の方より遠い足から退くと構える姿勢となり、失礼にあたります。そのため、下座の足から進み、上座の足から退く「下進上退」は、礼の根本の心である恭敬敬愛の表現となります。

前述の上座の向きを踏まえ、道場では「左進右退」の足運びが原則です。射場に入る時は左から入場して礼をし、退場は礼をした後に右足から退出します。

弓道は「主たるものを優先」します。また、「他者との調和」を大切にします。
では，その教えを他の動作や作法に活かしていますか？

【弓の準備と後片付けの順番】

優先順位は、道場→道具→自分です。挨拶が終わったら、先ず弦を張り、弓の姿を整えた後、道着等に着替えます。終わりは逆に、道場の清掃、道具の片付け、自身の着替えです。

自身を最優先にしていませんか？

【矢あげの順番】

矢をあげるときは、外れた矢を先に、中りの矢も的心から遠い矢からあげます。

的心に近い矢を残しながらあげるのは、射手への配慮です。ただし、的遠くにあり矢を跨ぐことで矢を痛めては本末転倒。そこは臨機応変に。

※本稿は、鴨川信之先生の手記および昭和 62 年 12 月号弓道誌の白石暁先生寄稿文を参考にリライトしたものです。

◀ 現在の千代台公園弓道場の玄関

▼ 火災前の千代台公園弓道場の師範席

編集後記

千代台公園弓道場は、建設時、青森県薬研から取り寄せた総桧造りの道場でした。残念ながら平成11年の火災により、建設時の面影は半減してしまいましたが、射場から臨む当時と変わらぬ的場と木々に覆われた矢道の風景、そして多くの先生方がお座りになった師範台から、当時の様子に思いを馳せることは出来ると思います。

独特の趣を持つ本道場は、全国的にも希有なものです。この貴重な道場がどのようにして始まり、守られてきたのか。多くの災難、特に平成 11 年の火災など、建設時から多くの方々に支えられてきたこの道場の歴史と精神を将来に引き継ぐとともに、末永く市民に愛される道場で在り続けますように、会員一同ここに願うものであります。

函館市弓道連盟　〒040-0013　函館市千代台町 27 番 8 号

千代台公園弓道場
開設 60 周年に寄せて

千代台公園弓道場 60 周年記念おめでとうございます。

この道場は、舘　宗武（範士八段）会長が私財を投じ、1957（昭和 32）年 8 月 28 日弓道場完成とともに同日付で函館市に寄付、採納されました。建設時、道場と住居を一体とすることで弓道における目的の達成と修練者の実技指導について利便性を高くし、また連盟関係責任者が常時在住することで大会等における開催に支障のない様にと最前の策として住込み管理の形態をとったと伝えられています。

私がこの道場に通うことになったのは 1981（昭和 56）年 39 歳の時、北海道新聞に弓道教室（9 ～ 3 月）の募集をみて是非やってみたいとの思いから、門を叩きました。あの当時は小栗欣吾先生、上田嘉一先生、枡谷よし子先生、葛西富雄先生、斉藤義一郎先生、そのほかにも指導してくださる先生が必ず道場にいらっしゃいました。多くの先生方より記憶に残るたくさんの指導を受けたことは、今の私の財産だと思っています。

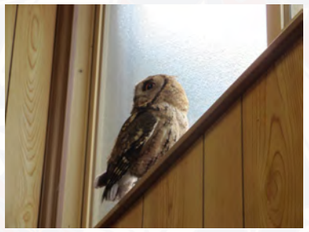
市における弓道場の管理は、建設時から 1986（昭和 61）年 3 月まで、住込みにより管理されていました。

その後、住込みによる嘱託を止め、管理を函館市弓道連盟に委託、連盟有志による管理の後、2006（平成 18）年 4 月からは指定管理者制度が導入され、連盟が指定管理者となり管理を行い、現在に至っております。

こんな街のど真ん中で、こんなに素晴らしい環境の道場は、日本中探してもそうはありません。

「春」木々の若い芽が春だと芽吹き、道場の大扉を前開にする
　　安土の整備にみんなでとりかかる　安土でその道場の格式がわかると言う
　　矢道の両側の木々そして桜が満開　フクロウが舞いこむ　梅の実がワンサカ

「夏」夏だ　夏だ　夏はいいなー　　蝉がさわぐ
　　暑さで肌脱ぎができないと言い出す
　　弓が狂うと嘆く人　でもあっという間の短い夏です



「秋」いい季節になった　弦音が最高
　　姫リンゴが真っ赤か　夕焼けで安土の屋根も真っ赤か
　　矢道が朱や黄色の葉っぱに覆われ　いいですねと言いながら
　　すっかり木々の葉が落ち　安土は冬対策

「冬」大扉を閉め小窓より矢を飛ばす
　　吹雪で小窓から雪が吹き込む　矢道の雪山に矢がささり春まで回収できない

そんな道場ですが毎日、今日こそはと道場へ足を運ぶ。
弓道は体育や健康のためばかりではなく、人生をより高く豊かにするものでなければなりません。
昔から射即生活とか、射即人生といわれてきました。つまり私は礼記射義と信じています。

平成 29 年 11 月 18 日

北海道弓道連盟西部地区
函館市弓道連盟
会長　教士七段　北山通泰

千代台公園弓道場の沿革
舘 宗武範士を知らずして、千代台公園弓道場は語れません

年　月　日	内　　容
昭和 32．5.23	・北海道西部地区弓道連盟会長 舘 宗武と函館市体育協会会長 古谷 一次連名で千代ヶ岱公園での弓道場新設を、函館市長古谷一次の副申書を添え、北海道知事田中敏文に申請書を提出（同知事より新設許可）
昭和 32．6.19	・弓道場新設工事着手（施工主：舘 宗武） （工事請負人＝登茂栄建設株式会社）
昭和 32．8.28	・弓道場完成。同日付をもって函館市（以下「市」）に寄付、採納 木造平屋建 道場 53.625 坪 的場 9.000 坪 計 62.625 坪
昭和 33．4．1	・舘 宗武教士七段、千代ヶ岱公園弓道場の管理許可 【許可内容】 ▶公園施設の管理方法：管理人として施設に住み込み管理すること ▶入場料の徴収：一般 200 円、学生 100 円を徴収し、維持費に充当
昭和 43．5．1	・住居表示実施により住所が千代台町 27 番 8 号となる
昭和 43．7.10	・敷地 1,961.20 ㎡が、大蔵省所有地から市有地へ
昭和 45．9.18	・更衣室増築 木造平屋建 6.01 坪 市費 79 万円支出
昭和 46.10.31	・住み込み管理人 舘 宗武範士八段逝去
昭和 46.11.	・市土木部公園係の管理となる （舘 宗武未亡人、常子氏が住込み管理）
昭和 47．4．1	・市土木部より、市教育委員会に所管移転
昭和 56．3.31	・住込み嘱託、舘　常子氏退職。
昭和 56．4．1	・函館市弓道連盟（以下「市弓連」） 副会長小栗欣吾教士七段住込み嘱託に就任
昭和 58．3.31	・的前遮蔽用テント一式（６間 15 万円）を栗原久子五段が寄付）
昭和 60．5.	・的前幕一式７万円を小栗欣吾教士八段が寄付
昭和 61．3.31	・住込み嘱託、小栗欣吾教士八段退職
昭和 63．4．1	・住込み嘱託を廃し、管理を市弓連に委託 連盟は村木英子四段に管理を選任
昭和 63．4.	・射場の床張替
平成 ３．3.31	・管理の村木英子五段退任
平成 ３．4．1	・市弓連有志数人により管理
平成 ５．6.15	・道場表札一式を市弓連が寄付
平成 ９．8.10	・千代台公園弓道場開設 40 周年記念事業を行う
平成 11.10.30	・火災により道場閉鎖
平成 12．８．５	・改築し、道場再開（道場開きを行う）
平成 18．4．1	・指定管理者制度開始、市弓連が指定管理者となり会員有志により管理を行う
平成 18.10.	・玄関表札を斉藤義一郎錬士六段に筆耕を依頼し掛け替え
平成 19．8.11	・千代台公園弓道場開設 50 周年記念事業を行う（祝射会、祝賀会）
平成 22．7.31	・的場の大規模改修（壁・天井張り替え、屋根塗装など　工期：7/1 ～ 7/31）
平成 24．4．1	・会員有志による管理を廃し、管理を専任化
平成 28．4．1	・ホームページと Twitter の運用開始

▼昭和 32 年千代台公園弓道場落成記念射会

▼ 市電電停側から見た道場
写真は遠的大会の様子

▼ 50 周年記念祝射会

道南における弓道の歴史
函館の大火の歴史と同じ、函館の弓道も大火と戦ってきました

明治 10 年頃には既に天神町や青柳町（八幡堂 明治 40 年大火で焼失）に矢場があったという。その他、谷地頭の雪荷堂で、雪荷流の名手が場主をしていた。この道場は大正２年に移転し、大平善蔵範士の命名により一箭会と改称。また、大平、阿波両範士がしばしば来函し、この道場で指導されていたことから、函館の弓道は急速に隆盛し、有段者が増えたという（昭和９年大火で焼失）。

同時期、函館地方裁判所所長に木村萬象氏が赴任し古道場を建設。函館市長 坂本森一氏が市役所に弓道部を創設した他、函館師範学校、函館商業学校、函館中学校、大谷女学校、鉄道弓道部（正鵠会道場）、安田大弓場、日魯漁業会社、日本セメント会社など、各方面で弓道が発展。しかし、昭和９年３月 21 日の函館大火により、直心会堀道場と海岸町鉄道弓道場を除き全て焼失した。

昭和 24 年、日本弓道連盟の結成とともに加盟（会長：舘教士、副会長：石井教士）。昭和 28 年（財）日本弓道連盟が結成され、北海道は六地に分かれ、西部地連には舘会長が就任。従来の北海道弓道連盟は北海道弓道連盟連合会に改組し、会長に長友教士、副会長に舘教士が就任。

昭和 32 年８月 28 日、舘会長が私財と若干の寄付金により、全国でも有数な総檜造り５人立ちの弓道場を建設し、同日函館市に寄贈（現在の千代台公園弓道場）され、道南における弓道の拠点として発展。

なお、道南弓道の礎となってくださった舘 宗武範士八段は昭和 46 年に逝去された。その後、西部地連および函館市弓道連盟は会長に、上田嘉一範士八段（平成 19 年 12 月 17 日逝去）、小栗欣吾範士八段（平成 24 年６月９日逝去）という偉大なる両範士を戴き、平成 18 年より北山通泰教士七段を会長とし、千代台公園弓道場を中心に道南における弓道の普及・発展に会員一同一丸となり取り組んでいる。

▼ 故 舘 宗武 範士

知っていますか？　控え室の額
宇野要三郎範士は、弓道界初の十段を贈られ、初代全日本弓道連盟会長となられた方です

本日貴市弓道場建設五周年記念大会の御開催に際し祝詞を申し上げる機会を得ましたことを欣幸に存じます

顧みますと五年前市御当局の深い御理解と御高配により東日本屈指の道場として建設され、弓道の発展に寄与されましたことは誠に感謝にたえない次第であります。

この建設にあたり舘教士は終生の事業としておかれるが如き情熱を捧げ、不自由なおからだにも拘わらず苦難を克服して日夜献身的努力を続けられました。あの当時を想起し感慨無量のものがございます。と共に御功績をたたえたいと存じます。この間における舘夫人の御内助は筆舌につくせぬものがあり、斯界の規範として推賞されております。

この後この道場には舘教士御夫妻の魂のこもった御管理によりよき環境を作り上げ、後進育成に着々その効をあげ優秀な人材も輩出し斯界に稗益されたことは極めて甚大であります。

貴道場の落成式に参列致しました当連盟の千葉前会長、鈴木伊兵衛範士も今は故人となられましたが今日の盛儀を地下においてどんなに喜び且つ祝っておられることでありましょう。

弓道は日本固有の武道として今後益々発展することと存じます。

技術の向上は勿論肝要なことではありますが更に進んで弓道本来の使命である人間形成に主眼をおき、道場が修練の場として多数の方々に活用され、更に一段の御発展を祈念してやみません。

最後に古谷市長殿初め市御当局の斯道に対する御高助を衷心感謝して祝辞と致します。

昭和三十七年七月十五日
財団法人全日本弓道連盟
会長 宇野 要三郎